

指揮: 小林 研一郎
【桂冠名誉指揮者】
ピアノ: 金子 三勇士

リスト:
ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124
ベートーヴェン:
交響曲第3番《英雄》変ホ長調 op.55

サントリーホール

2023年3月3日(金)19:00開演

4日(土)14:00開演 「本日の聴きどころ(プレトーク)」13:20~

リストへの愛と、神の光を感じる《英雄》が
聴き手の心を高揚させる



©Seiichi Saito

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引きがございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

聞き手 伊熊 よし子

国内外で活発な活動を展開している指揮者の小林研一郎(愛称コバケン)が、日本フィルハーモニー交響楽団の東京定期演奏会で、リストのピアノ協奏曲第1番とベートーヴェンの交響曲第3番《英雄》というプログラムを披露する。その選曲についてお話を伺った。

「リストのピアノ協奏曲第1番のソリストとして登場する金子三勇士は、子どものこ

ろからよく知っています。これまで何曲も演奏を聴かせてもらっていますが、彼は日本とハンガリーの血を引く特殊な感性の持ち主で、その感性がリストを通して独特な光を放つと思います。今回も、おそらく白熱した演奏が生まれるのではないかと期待しています」

リストのピアノ協奏曲第1番は4楽章構成で、全体は連続して演奏される。

「この協奏曲は人々をけつして飽きさせることのない、リストの最高傑作のひとつだと思います。絢爛豪華な第1楽章、同時代のショパンを思わせるノスタルジックでディレーテーな趣の第2楽章、飛び跳ねるような第3楽章、自由で華やかな第1楽章の展開部ともいえる第4楽章といずれもリストならではの曲想に満ちています」

そのリストとの組み合わせは、ベートーヴェンの交響曲第3番《英雄》である。

「ベートーヴェンは幼いリストのピアノを聴き、素敵な演奏だといって彼を抱き上げたという記録が残っています。2曲とも変ホ長調で書かれていますし、今回はこうした意味合いをもつ曲を組み合わせてみたかったのです。《英雄》はベートーヴェンが天啓を得て書いたのではないかと思えるほど、神様の光を感じます。人類に降り注ぐ特殊な神の光。とりわけ第2楽章のハ短調のシンプルで、人の心を深くえぐるようなところが印象的。この作品は現代音楽の先駆けというか、現代音楽への道を拓いてくれたものだと思っています。ベートーヴェンがその道を示唆してくれたのに、のちに続く人々は残念ながらそれを確実な形で受け継ぐことができませんでした。悲しいです。」

コバケンさんは、東京藝術大学の作曲科在籍中にこの作品と出会っている。

「ベートーヴェンは、私に作曲ではなく演奏する側に導いてくれました。《英雄》には思い出が数多くあり、特にオランダのネーデルラント・フィルとは長年に渡りこの作品を演奏し、アムステルダム・コンセルトヘボウのすばらしい響きのなかで共に音楽を作り上げたことは忘がたい記憶となっています。あのホールは音響が特別で、響きが絶妙に空気と溶け合っていく。前の音がまだ残っているところに次の音が融合し、えもいわれぬ音の世界が広がっていくのです。そうした場所で《英雄》は何度も演奏しました。私にとって、この曲は音作りの“ひとつの礎”となっています。今度はサントリーホールで作品をどのように響かせるかと考えると、心が高揚する思いです。皆様には、ひとつひとつの音を胸に閉じ込めていただけるとうれしい!」

2023年1月にはハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団の来日公演も予定され、その指揮も楽しみにしていると熱く語る。

「久しぶりに日本のみなさまにハンガリー国立フィルの演奏を聴いていただくことができます。いまはどんな音楽を届けることができるか、その思いが心のなかで脈打っています。楽譜を深く読み、熟考して作品の内奥にひたすら迫り、作曲家の魂を代弁することに意義を見出すことを信条としていますから」

コバケンさんの音楽は第1音から聞き手を作品の内奥へと強烈な力で引き込む。彼は何度演奏した作品でも初めて指揮するような新鮮な思いをもってタクトを振る。今回のリストとベートーヴェンは、自家薬籠中の作品。ひとつひとつの音を心に刻み込みたい。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金

(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人 日本芸術文化振興会